

理学療法学科

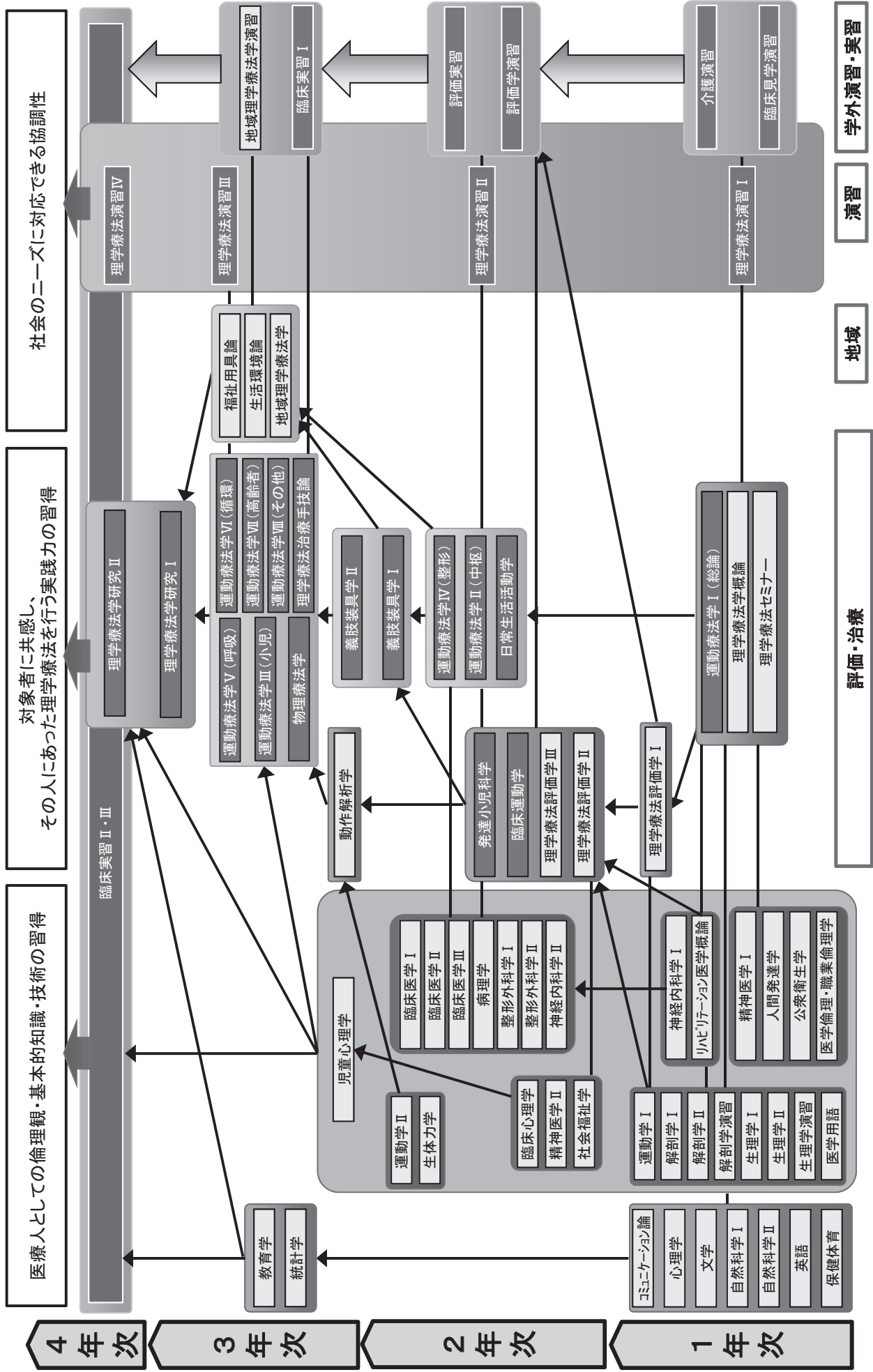
理学療法学科 カリキュラム

〈3・4年次〉

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	心理学	2	30							2	30		14
		文学	2	30							2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		コミュニケーション論	1	30							1	30		
		統計学					2	30			2	30		
基礎分野	小計	12	210	0	0	4	60	0	0	16	270		14	
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		12
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学Ⅰ	4	60							4	60		
		運動学Ⅱ			2	30					2	30		
		人間発達学	2	30							2	30		
		医学用語	2	30							2	30		
		生体力学			2	30					2	30		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		12
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学			2	30					2	30		
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
		臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学	
		臨床医学Ⅲ			4	60					4	60	一般臨床医学	
		整形外科Ⅰ			2	30					2	30		
整形外科Ⅱ			2	30					2	30				
児童心理学					2	30			2	30	障害児心理を含む			
保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		2	
	社会福祉学			2	30					2	30			
	医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30			
	公衆衛生学	2	30							2	30			
専門基礎分野	小計	36	570	26	390	2	30	0	0	64	990		26	

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準	
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数					
専 門 分 野	基礎理学療法学	理学療法学概論	2	60							2	60		6	
		理学療法セミナー	1	30							1	30			
		臨床運動学			2	60					2	60			
		発達小児科学			1	30					1	30			
		臨床見学演習	1	30							1	30			
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		5	
		理学療法評価学Ⅱ			2	60					2	60			
		理学療法評価学Ⅲ			1	30					1	30			
		動作解析学					1	30			1	30			
		評価学演習			1	30					1	30			
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ(総論)	1	30							1	30		20	
		運動療法学Ⅱ(中枢)			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅲ(小児)					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅳ(整形)			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅴ(呼吸)					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅵ(循環)					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅶ(高齢者)					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅷ(その他)					1	30			1	30			
		理学療法治療手技論					2	60			2	60			
		物理療法学					2	60			2	60			
		義肢装具学Ⅰ			1	30					1	30			
		義肢装具学Ⅱ					1	30			1	30			
		日常生活活動学			1	30					1	30			
		理学療法学研究Ⅰ					1	30			1	30			
		理学療法学研究Ⅱ								1	30	1	30		卒業論文作成含む
		理学療法演習Ⅰ	1	30							1	30			
		理学療法演習Ⅱ			1	30					1	30			
	理学療法演習Ⅲ					1	30			1	30				
	理学療法演習Ⅳ								2	60	2	60			
	地域理学療法学	生活環境論					1	30			1	30		4	
		地域理学療法学					1	30			1	30			
		福祉用具論					1	30			1	30			
介護演習		1	30							1	30				
地域理学療法学演習						1	30			1	30				
臨床実習	評価実習			3	135					3	135		18		
	臨床実習Ⅰ					7	315			7	315				
	臨床実習Ⅱ							8	360	8	360				
	臨床実習Ⅲ							8	360	8	360				
専門分野	小計	8	240	17	555	24	825	19	810	68	2430		53		
	総計	56	1020	43	945	30	915	19	810	148	3690		93		

理学療法学科カリキュラムツリー



4 年 次

目次：理学療法学科 4 年次

理学療法学研究Ⅱ	97
理学療法演習Ⅳ	98
臨床実習Ⅱ	99
臨床実習Ⅲ	99

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法学研究Ⅱ
代表講師	山内 一 正 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な研究活動の手順を身に着けるため、各々の専門性を持った教員の指導の下、研究の進め方やデータの統計処理、プレゼンテーションの作成等について学ぶ。				
授業概要	各教員ごとに学生を分担し、データ収集、統計処理、考察および研究発表まで指導し、研究論文作成を学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 論文の構成と研究進め方について理解することができる。 収集したデータの統計処理を適切に行うことができる。 結果と先行研究に基づき、考察を述べることができる。 科学的・論理的思考の下、論文をまとめることができる。 				
成績評価の方法と基準	卒業論文発表内容の評価(100%)				
テキスト・教材等	配布資料、他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	研究データ収集と分析				坂崎 浩一 池田 耕治 福島 芳子 山内 一正 加藤 孝則 明瀬 敬二 次山 航平
第2回	研究データ収集と分析				
第3回	研究データ収集と分析				
第4回	研究データ収集と分析				
第5回	統計処理と考察				
第6回	統計処理と考察				
第7回	PowerPoint でのプレゼンテーションの作成				
第8回	PowerPoint でのプレゼンテーションの作成				
第9回	PowerPoint でのプレゼンテーションの作成				
第10回	PowerPoint でのプレゼンテーションの作成				
第11回	卒業研究発表 発表7分、質疑3分でのプレゼンテーション				
第12回					
第13回					
第14回					
第15回	卒業論文集用原稿の作成				

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習Ⅳ
代表講師	福島 芳子 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身につけるため、各々の専門性をもった教員の指導のもと、対象者の運動療法を実践するにあたり、必要な動作観察及び分析の方法について学ぶ。				
授業概要	1年次では「リハビリテーション医療」における身体に関する基本的知識を学び、2年次では「解剖学」・「生理学」・「運動学」の3教科を臨床に向かうため応用することを学んだ。3年次では臨床場面で多く経験する疾患について、理学療法の展開において症例を把握するために、治療場面を想定して思考・実践することを学んだ。4年次前期では症例の動作観察及び分析を的確に行い、運動療法・治療に役立てる思考を学ぶ。				
到達目標	理学療法士としての基本的知識技術の確認、および臨床実習に必要な動作観察、分析、指導ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	前期：筆記試験(100%) 後期：形成的評価(70%)・筆記試験(30%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	演習①動作観察及び分析のポイント(身体重心の位置・関節モーメント)について理解し、説明できる。				加藤 孝則 明瀬 敬二
第2回					
第3回					
第4回					
第5回	演習②脳血管疾患における動作(起居動作～歩行)の観察及び分析方法について理解し、説明できる。				池田 耕治 山内 一正
第6回					
第7回					
第8回					
第9回	演習③整形外科疾患における動作(起居動作～歩行)の観察及び分析方法について理解し、説明できる。				福島 芳子 次山 航平
第10回					
第11回					
第12回					
第13回	試 験				
第14回					
第15回					
第16回					
第17回	代謝・循環：エネルギー代謝や循環機能(運動時の循環動態)について理解				加藤 孝則
第18回	呼吸：呼吸機能(呼吸筋活動・呼吸調節)について理解し、説明できる				山内 一正
第19回	筋：骨格筋の構造や筋収縮のメカニズムについて理解し、説明できる。				明瀬 敬二
第20回					
第21回	神経・感覚：神経線維の特徴や感覚器について理解し、説明できる。				次山 航平
第22回					
第23回	消化・吸収・排泄：消化や排泄機構について理解し、説明できる。				池田 耕治
第24回					
第25回	血液・免疫・内分泌：血液の生理や免疫細胞機能について理解し、説明できる。				福島 芳子
第26回					
第27回	病理：炎症、創傷治癒の過程、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを理解し、説明ができる。				次山 航平
第28回					
第29回	試 験				
第30回					

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習Ⅱ
代表講師	山内 一 正 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)・臨床実習指導者				
授業方法	実 習	単位数	8	学期・回数	前期：360時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身に着けるため、病院・施設などの臨床現場において、実習指導者の指導の下、診療参加型の実習にて、症例の評価・問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授業概要	病院・施設等臨床現場において、対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価などの基本的な臨床の力を学習する。				
到達目標	対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価など実習指導者の十分な指導・助言にて実施し、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力ができる。				
成績評価の方法と基準	・OSCE(客観的臨床能力試験)(50%)・ポートフォリオ(30%)・筆記試験(20%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
期 間	授 業 内 容				担当講師
8週間	期 間：2021年5月10日(月)～7月3日(土) 学習内容： ・臨床実習指導者の指導を受けながら、診療参加型の実習において患者の評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施。その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 ・理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 ・患者に対する総合的なリハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。 ・医療人としての態度を身につける。 到達目標：十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたはまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				臨床実習指導者

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習Ⅲ
代表講師	福 島 芳 子 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)・臨床実習指導者				
授業方法	実 習	単位数	8	学期・回数	前期：360時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身に着けるため、病院・施設などの臨床現場において、実習指導者の指導の下、診療参加型の実習にて、症例の評価・問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授業概要	病院・施設等臨床現場において、対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価などの基本的な臨床の力を学習する。				
到達目標	対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価など実習指導者の十分な指導・助言にて実施し、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力ができる。				
成績評価の方法と基準	・OSCE(客観的臨床能力試験)(50%)・ポートフォリオ(30%)・筆記試験(20%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
期 間	授 業 内 容				担当講師
8週間	期 間：2021年7月19日(月)～9月11日(土) 学習内容： ・臨床実習指導者の指導を受けながら、診療参加型の実習において患者の評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施。その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 ・理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 ・患者に対する総合的なリハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。 ・医療人としての態度を身につける。 到達目標：十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたはまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				臨床実習指導者